

# 『なわ通学合宿』 “地域とともに”

名和公民館

9月30日(水)から10月4日(日)まで御来屋漁村センターで、名和小学校の4年〜6年生までの児童22人が「なわ通学合宿」を体験しました。『仲間づくり・自分づくり・思い出づくり』をスローガンにスタートしましたが、異学年で協力し合うことや高学年としてリードすることの難しさ、羽目を外してルールを守れないなど、問題に直面します。



▲『記念写真』通学合宿、がんばりました

しかし、圓福寺(御来屋)での座禅や花火、まち学探検、地域交流などの体験活動を重ねることで、少しずつ自分たちがしなければいけないことが見えてきました。

地域の皆さんとの交流会では、元気な声とキラキラ笑顔でお迎え。自分たちで作った『おもてなしブレゼント』や1食100円で手作りカレー・おにぎりセット・ホットドッグなどを提供しました。



▲「義援金をお願いしま〜す」

この売り上げは、カンボジアの小学校に義援金として送るという目的を果たすため、子どもたちも熱が入ります。交流会場は活気にあふれ、それを見守る地域の皆さんの優しい笑顔が、さらにやる気パワーにつながりました。

集まった義援金は20,611円。後日、支援団体に贈呈しました。

地域の皆さんの励ましとご協力で、さまざまな体験や学びの場を得ることができました。今後、地域とともに、取り組み、子どもたちを育て、地域社会を目指します。

## 「大山セカンドスクール」が開校

大山小学校

8月30日(日)から9月4日(金)まで大山青年の家で大山小学校4年生から6年生46人が参加し「大山セカンドスクール」が行われました。「友達と暮らす一週間。家族と離れる一週間。今、何を考え何をすべきか、自分で気づき、考え、行動する生活」をテーマに開校されました。

例年に比べ、2か月早い開校で、カヌー、野外炊飯等を活動内容に盛り込むことができ、プログラムをより充実させることができました。雨のために内容を変更した活動もありましたが、ほぼ予定通り実施することができました。児童は一週間家族と離れて暮らすことが一番つらかったようです。

平成26年度は青年の家から通学しましたが、今回は学校の先生が青年の家に来て、授業をするなど新しい試みも行いました。

「長期宿泊体験モデル事業」の一環として実施されたもので県(大山青年の家)や公民館、学校が一体となって取り組み、大きな成果を得ることができました。



▶火起こし体験。野外炊飯の火種です



▶カヌーも楽しく。すぐに乗れました